



児童自ら学びを深める算数科授業の創造～一斉授業を軸とした協働的な学びや個別(最適)な学びの取組を通して～

「挑戦と創造」学び深く 志高く 未来を拓く

研修だより

令和8年 7月 29日
世羅町立せらひがし小学校
No.10

「きらりノート」の変革 ～学年ごとのステップと教師の役割～

子どもたちの思考を視覚化し、深めるための「きらりノート」。発達段階に応じたスモールステップと、それを支える教師の板書のあり方を共有します。

■ 児童のノートづくりの姿（発達段階別の工夫）

各学年で目指す姿を累積的に（前の学年の内容をベースにして）積み上げていきます。

【低学年】自分の考えをノートの図に書き込む

まずは「自分の力で考えを表現する」第一歩です。文章だけでなく、ノートにかいた図の中に、自分の考えを書き込めるようにします。

1年生

2年生

【中学年】低学年の姿 + 「友達の考えを書き加える」

自分の考えに加えて、全体交流やペアワークで出た「友達の考え」を自分のノートに書き足し、視野を広げます。

3年生

4年生

【高学年】低・中学年の姿 + 「自分と友達を比較し、自分の言葉で気付きを書く」

「自分と友達の考えの共通点・相違点」を比較し、「なるほど!」「次はこうすればいいんだ」といった気づきを、自分の言葉でまとめとして書き加えます。

5年生

見通しを持って式を立てていますね。

これまで学んだことと結び付けて新しい気づき・ふしぎを見つけていますね。

6年生

友達の発言を聴いて、考えや気づきを記録していますね。

すずらん

ていねいなじでかいていますね。

ひまわり A

①自分の気づきとポイントを色分けしているね
色を分けると何が大切かパッと分かるね!

②それを、次の問題に活かしていきましょう!

ひまわり B

📌 教師の立場・関わり（大切にしたいこと）

子どもから出た「生の言葉」をそのまま板書に残す!

- ・教師側できれいに整理整頓した「大人の言葉」に言い換えるのではなく、子どもが発した言葉そのものを板書に残します。
- ・子どもの素直な言葉が残ることで、子ども自身が板書を手がかりに思考を深め、「きらりノート」へ自分の考えを落とし込めるようになります。